

厚生労働大臣賞（優秀賞）

『エコ』の意義

兵庫県 兵庫教育大学附属中学校 二年 小寺 良菜

友人と電話で話していた時のことだ。去年から全世界にはやりだしたコロナについて、お互いにぐちづっていたのだが、

「でも、コロナがはやって良かったなと思う事もあるよ。」
と友人が言い出した。

「それは何？」

と尋ねると

「お母さんが水の使い方に関する言わなくなった事。」

と言う。友人の母親は、日頃から水の使い方についてとても細かく、ことあるたびに『エコ』を連発するそうだ。

「夏の暑い日、部活から帰ってきて、汗まみれの体をたっぷりのシャワーで洗い流したいなって思っても、水を使い過ぎるからダメって言われるんだ。」

彼女は以前からよく言っていた。だが、それがコロナとどうつながるのか。

「コロナがはやったおかげで、市町村の特別措置で、六ヶ月間、水道代が無料なんだ。だからどんなに水を使ってもタダ。それでお母さん、あまりうるさく言わなくなったんだ。」

なるほど、納得だ。無料ならいくら使っても文句を言う人はいない。「良かったね。」

そう言って電話を切った。

それなのに、なぜかすっきりしない。モヤモヤした気持ちをかかえたまま、お母さんにその話をした。するとお母さんは言った。

「そうねえ、私も家計をやりくりしているからそのお母さんの気持ちはよく分かるわ。でも、一歩下がって、もう少し大きな視野で考えてみると、自分の家計に影響がないからよし、とするのは違うかな。地球規模で考えたら、資源には限りがある。だから、『エコ』は自分の家計の支出

をおさえるためだけのものではなく、地球の資源を、ひいては私たちの未来を守るために必要なことだと言えるわね。それに気付くことができれば、水道代が無料になるうとなかろうと、やることは同じなのではないかな。」

ああ、それだ。私のモヤモヤの原因は。私は学校で資源に限りがあると習った。それは水だけではない。石油も、土地も、木材も、何もかもだ。私たちは地球という限られた枠の中で生活している。そこに存在できる物の量は決まっている。それらの資源は、私たち人間だけではなく、地球上に生きる全てのものたちと共に分かち合っていかなければならない。大切な資源を守っていくために、私にできる事は何だろう。中学生である私たちには、経験や知識も財産もない。地球の資源を守りぬくなんて、そんな大きな事を言えるわけがない。でも、それでもできる事がある。それが『エコ』だ。必要以上に使わない。大切に使う。無駄にしない。その小さな一つ一つの行動が、今の私たちにできる最大の資源を守るための行動だ。

きっかけは「水道代が高いからもっと水を使う量を減らそう」で良いのだと思う。実際に、それが一番手っ取り早く、水の無駄遣いを減らす行動につながるのではないか。人は自分の利益に関わることには、とてもびん感だ。常に意識し、継続的に行動することもできる。でもそれだけでは足りない。『エコ』は、個人の利益のためだけではなく、地球を守るための行動でもあるという事を、どこか心の片隅に置いておかなければならない。今のところ私たちは地球以外では生きていけない。すなわち、私たちの運命は地球と共にあるという事だ。地球が減びると私たちも滅びる。地球がいつまでも水資源の豊かな星であるという事は、私たちが生きていく上でかけがえのない利益につながっていく事はあきらかなのだから。